

TOKYO MOVING
ROUND

東京感動線

Magazine

2019 Autumn

Vol.03

Supported by
Discover Japan

これからの、夜のたしなみかた

TAKE
FREE

東京の、
ちょっとだけ
未来の景色。

ここでは、いろいろな街と街、いろいろな人と人が、
山手線という、フシギな輪っかにつながっている。
違うもの同士が、つながりながら、ひろがっている。

そこから生まれてくるものは、
思いもよらない発見、出会い、楽しさ、優しさ…。
心が動き動かされる、新鮮な日々。

そこに生きるみんなで、
東京を世界でいちばんの感動に満ちた
ワンダープレイスにしていけたらいいなと思う。

具体的に何が生まれるかは、きっと本当にいろいろ、
そしてまだ、本当に未知数だらけ。

でもそれが、これからいろいろな人たちと
いっしょにつくっていく、
開かれた山手線の可能性だと思う。

TOKYO MOVING
ROUND



東京感動線

田町 JR田町駅西口(三田口)側 飲食店街

上野 東京国立博物館



comment: 「いくつもの駅周辺をめぐり、ファインダーをのぞきました。繁華街といっても、駅ごとに人の属性や店、道幅など構成する要素は異なります。その中で各要素のバランスがよいのが田町。賑わいが聞こえはじめ、人々の物語がはじまる瞬間を感じた一枚です」

comment: 「夕方と夜の間の色に染まる、絶妙なタイミングを狙いました。空の色味が落ち着いた印象を与えてくれます。こうした建造物を撮影する際には、周囲を含めた構図に配慮しています。手前の池の縁も写真に収めたのは、構図でも特徴を出すためです」



写真家
横田裕市 | Yuichi Yokota
1985年生まれ、東京都在住の写真家。福島県郡山市出身。国内外の風景を撮影するかたわら、愛妻家として妻の撮影を手掛ける。Apple広告採用、国内外での受賞、海外メディア掲載等、国内外で活躍

渋谷 スクランブル交差点



comment: 「渋谷に来ると感じる、大きな波に飲み込まれそうな感覚。時代の波、人の波、感情の波。スクランブル交差点は、老いも若きも信じられないくらいの人数が歩く象徴。『いま』が集まる街。そんな渋谷を撮りたいと思いました。ここは“若者だけの街”ではない」

巣鴨 巣鴨地藏通り商店街



comment: 「活気と人情にあふれた場所、巣鴨地藏通り商店街を選びました。巣鴨のシンボルであり、たくさんの方が行き交うところ。人と人が触れ合い、言葉を交わし、居心地がいい。だから人が集まるのだと思いました。ここは“お年寄りだけの街”ではない」



写真家
中村彰男 | Akio Nakamura
1978年生まれ。ライトスタジオを経て写真家の両角章司氏に師事。ファッション、広告、映像撮影・編集など幅広く活動。「自分」をもちながら、いつも溝かれるようにシャッターを切っています」

「夜」の過ぎしかたの概念 ナイトタイムエコノミーとは



一般社団法人
渋谷未来デザイン 理事

金山淳吾

Profile

2001年、早稲田大学卒業後、電通に入社。'10年に音楽業界へ転身、'15年に独立。'16年より渋谷区観光協会代表理事を務める。'17年、EVERY DAY IS THE DAYの設立メンバーとして参加

「夜の楽しみ方はひとつではない」

「ナイトタイムエコノミー」夜の経済活動」だが、そういわれてもピンとこない人もいるだろう。そこで、渋谷のナイトタイムエコノミー振興とモラル向上を目指すプロジェクトを展開する渋谷未来デザイン 金山淳吾さんに、ナイトタイムエコノミーの概念について、そしてなぞい、日本で注目されているのかをうかがった。

——ナイトタイムエコノミーとは どういう考え方なのでしょう。

日本は、観光立国に向けて、海外からより多くの観光客を呼び込み、その消費を増やそうとしています。観光客一人あたりの消費額を見ると、一番高いのは交通費、2番目が宿泊費です。その次に食べたり、遊んだりにかかる費用がくるわけですが、インバンドではこの消費額が少ない。例外的に、アジアからの観光客の爆買いがあります。それも程度落ち着いたときに、どうやって消費額を増やすかということが課題になっています。その中で、観光客の日の過ぎし方のパターンは、ある程度決まっているけれども、その前後の時間帯、特に夜の過ぎし方

が注目されるようになりました。

たとえば夕食後にもう1軒、BARで飲んだり、舞台を観たり、アートを楽しんだり。海外からの観光客にあともう1〜2時間、活動してもらうことがインバンド消費につながります。そうして消費を誘発する夜の時間を増やそうというのがナイトタイムエコノミーの考え方です。

ただ実際問題として、海外からの観光客のアンケート調査などを見ると、日本の夜はおもしろくないという意見が多い。日本に住んでいる人たち、働いている人たち

「安全・安心は前提」

にとつては、そんなことはないと思うのですが、海外からの観光客の場合は、日本の日常の慣習とはまた違う、非日常の観光体験を求めてやってきます。それなのに、せっかく来たのに夜に何をしたいのかわからない」となってしまうのです。つまりしっかりプロモーションされていない、伝わっていないということ。そこをしっかりと

顕在化していこうと、官公庁や各自治体を取り組んでいます。

——金山さんが11月に渋谷で開催を予定している「WHITE NIGHT WEEK」もその延長線上にあると

いうことですね。

そうですね。夜、街に出てみようというのをコンセプトに、夜の楽しみ方が多様であることを伝えたいと思っています。

夜のエンターテインメントを考えると、大きい転換期のひとつに、2016年に風営法が改正されたことがあると思います。規制が緩和されたことで、それまでグレーゾーンに分類されていたクラブや遊興施設が法律の枠内でビジネスをできるようになりました。そのこともあって、夜のエンターテインメントという、それは法的に問題がないのか、本

当に安全なのかといったリスクマネジメントに目が

いきがちです。もちろん安全・安心は絶対の前提条件ですが、夜のエンターテインメントといっても、クラブ業界だけの話ではないということをきちんと伝える必要があると思っています。

夜とひと口にいても長い。僕の勝手な分類ですが、夕食以降を夜だとして、17時から20時、20時から23時、23時から2時、2時以降と分かれるんじゃないかと思っています。夜には、散歩できる時間帯もあれば、お酒を飲んだり、歌ったり、踊ったりを楽しむ時間帯もある。そして、アートに触れたい、観劇したいなど、ニーズも

さまざまではなく。そうした夜の文化振興、経済振興について議論する一週間、それが「WHITE NIGHT WEEK」です。

——どういったコンテンツを予定しているのでしょうか。

あくまでも予定ですが、クラブ空間でのキックオフパーティのようなものや、ライブハウスなどのエンターテインメントサイトのサイロキットプログラムとして、定額でいろいろな場所に足を運んでもらう仕組みを考えたり、街中でのアートプロジェクトとして、サーカスのようなショープログラムを開催する実験をしたりしたいと考えています。

それから、渋谷の夜景を再デザインするプロジェクトを立ち上げようと思っています。日本は、夜に特化したランドスケープデザインをしていないので、渋谷であれば、いろいろな広告が混在する中、

夜の楽しみ方の多様性を議論し、提案する場

WHITE NIGHT WEEK

2019/11/1(金)～11/8(金)に、夜の文化と経済の振興を目的に、食やアート、演劇など夜のエンターテインメントの多様性について議論し・提案。体験型の実験(イベント)を通してその可能性を探り、文化としての定着を目指す。夜景再生プロジェクトも発表予定

店のネオンがチカチカしている。トータルでいうと賑やかでエネルギーがあるという印象にはなるけれど、夜景としてデザインされていないのが惜しいと思うんです。実現できるかわかりませんが、具体的には、屋上に光のソリューションを入れていきたいと思っています。日本の屋上はほとんどグレー一色。渋谷にはこれから、いままでも以上に高層のビルができてくるので、そのルーフトップから見たととき、きちんとデザインされたいきれいな夜景をつくりたいと考えています。

——そうして先進的なプロジェクトを進めるにあたって、渋谷の街ならではのメリットやデメリットを教えてください。

渋谷は、文化的感性の高い人が集まりやすい街。感性が若々しく、夜の楽しみ方も知っている。いろいろな意味で人生を豊かにしたいと思っている人たちの多さがアドバンテージだと思います。

一方で、先鋭的な議論をしたり、いろいろな人がいろいろなアイデアをテーブルに出したりしていることが、意図しない形で伝わってしまうと、渋谷＝無法地帯のようなイメージをもたれやすい。その顕著な例がハロウィンでしょう。イベントとしてやっているわけ

「日本の夜を豊かに」

す。

WHITE NIGHT WEEKとは、日本の夜を安全に豊かにしている人や団体、モノや技術、イベントやプロジェクトといったものを表彰するアワードをつくりたいと思っています。

——日本におけるナイトタイムエコノミーの先鞭をつけるのが渋谷ということになりそうですね。その渋谷で、9月には、昨年に続き「SOCIAL INNOVATION WEEK SHIBUYA」(以下SIW)も開催されます。このイベントが生まれたいきかけを教えてください。

の下に、国内外の有識者を招き、多様な未来の可能性を探るトークセッションを行うほか、昨年同様、新しい視点や発想で社会を変えようという取り組みやプロジェクトを表彰します。

NETWORKINGは、いろいろな働き方をしているチーム、シェアリングエコノミーの可能性を追求している人たち、新しいアートプログラムをつくっているクリエイターなど、渋谷だけではなく、

原点にあるのは、渋谷におけるシビックプライドを可視化し、主体性をもって参加する仕組みをどうやってつくれるかということ。たとえばアメリカ・オースティンの「サウス・バイ・サウスウエスト」「フランス・カンヌのカンヌ国際映画祭や「カンヌ・ライオンズ」「イタリア・ミラノの「ミラノ・サローネ」など、成熟した文化都市には、人が目的をもって集まる仕組みがあります。渋谷にもそういうシティブロジェクトをつくりたいと思ったのがきっかけです。

シティブロジェクトには、ブルースと縁の深い地であるオースティンでもともと音楽フェスとして立ち上がったサウス・バイ・サウスウエストのように、街の歴史や文化を踏まえて生まれたものと、カンヌの素晴らしい環境の中で広告について語るカンヌ・ライオンズのように、直接のゆかりはないものの、その街がもつ魅力によってその地で開催されているものという、ふたつがあると考えています。では、渋谷のシティブロジェクトは、どちらに寄せるのかと考えたときに、歴史や文化をベースにするか音楽やファッションになるけれどミラノのファッションウィークなどの価値をまとうのは非効率です。それよりも、これからの文化を可視化

「未来の文化を可視化」

するプロジェクトのほうが良いと考えました。渋谷区は、2015年に基本構想を「ちがいをちからに変える街。」につくり直し、ダイバーシティ&インクルージョンを政策の最上位概念においてまちづくりをしています。渋谷区が掲げるダイバーシティ&インクルージョンは、いろいろな人が関係をもったり、価値観をたたえ合ったりすることで未来を豊かにすることとらえています。社会や人生を豊かにするための考え方もついている、行動・活動している人や企業を集めて、ショーケースングするプロジェクト、それがSIWです。

——今年のテーマ、「新しい価値観〜The New Rules〜」について教えてください。

ルールというと、規制や規律と訳されてしまうけれども、SIWでは、ルールとは価値観であると感じています。自分が思い描くように生きたいし、幸せになりたいと思っても、夢はなかなかかなわないというのが現実でしょう。でも新しい価値観によって、夢をかなえる可能性は高まります。たとえば、子どもの頃からプロのサ

また、民意の積み上げによってサッカースタジアムの建設を目指す「スクランブルスタジアム」構想の中間発表も行う予定です。

新しい価値観が新しい社会をつくることをテーマに、さまざまなコンテンツが展開されるSIW。ぜひ足を運んで、新しい価値観が生まれる感動、そしてそこからつながる新しい未来を予感・体感してほしい。

「新しい価値観が新しい社会をつくる」

——今年のSIWは、LEARNING (ラーニング)、NETWORKING (ネットワーキング)、EXPERIENCE (エクスペリエンス)という3つの柱があるとうかがいました。

その中心となるのはLEARNING、つまり学びの場です。ソーシャルイノベーションというキーワード



昨年のSIWは、ソーシャルイノベーションをキーワードに開催。「本質」をテーマにしたトークセッションでは50名以上が登壇した



新しい価値観で多様な未来について考える

SOCIAL INNOVATION WEEK SHIBUYA 2019

2019/9/11～9/22に、渋谷～原宿～表参道エリアを中心に、商業施設やイベントスペースなど多拠点で、トークセッションやプレゼンテーション、体験プログラムを開催する都市回遊型イベント。今年のテーマは「新しい価値観～The New Rules～」

明・暗と陰陽が 連続する 大人の夜遊び場



PLUSTOKYO

密度の濃いラウンジと
夜を仰ぐルーフトップ

中央通りに面した銀座一丁目のキラリトギンザ内で2018年秋オープンしたPLUSTOKYOは、近年まれに見る内容の濃いナイトスポットだ。まずは12階。ホテルのロビーをテーマにした約300坪のラウンジフロアは、多面的な空間構成によって広さを感じさせるスペースと、距離の近い親密な夜を体験できる部分を巧みに織り交ぜている。

エントランスのすぐ目の前には15mのギャラリースペース。その裏手は国内にわずか2名といわれる銭湯絵師・中島盛夫氏が描いた富士山をシンボルとするメインロビー。

窓側のメインバーから通路を反時計回りにたどると、メインロビーの富士山の真裏の壁に赤富士。再び角を曲がると小さなバーカウンターが現れ、その先にはローズとサロンのふたつのVIPルームの入り口が。さらに進めばより落ち着いた雰囲気のスベシャルバーも用意されている、という説明で具体像をつかむのは難しいだろう。しかし、

道(あるいは夜)に迷うような空間の連続こそがPLUSTOKYOの醍醐味なのだ。

エモーションを刺激されるのはそれだけではない。新緑のアーチを伝って上るのは、東京の夜を仰ぐルーフトップ。ここでは、屋上専用のDJが心地よい音楽を流す中で手ぶらOKのBBQが楽しめる。この場所で驚くべきは、深夜まで音を鳴らせる日本初認可のルーフトップクラブにもなることだ。

12階のラウンジフロアに漂う密度の濃さから一転するルーフトップの開放感。明暗・陰陽が一体となった遊び場は、やはり、こなれ

「ナイトクラブではなく ライフクラブをつくりたい」

PLUSTOKYO プロデューサー 中本幸一さん



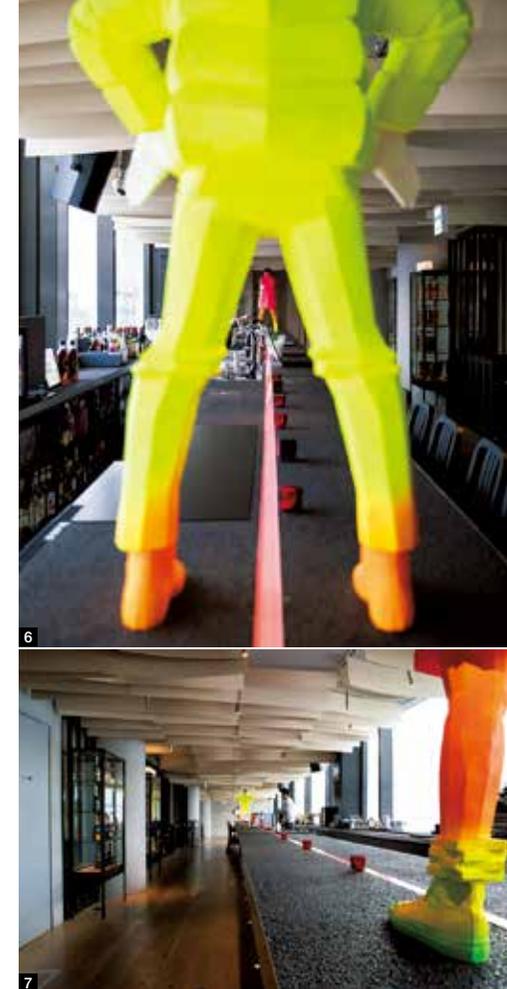
た大人の」と評する他ないだろう。
伝統の街・銀座から
最新の東京を

「ニューヨーク、パリ、ロンドンなどのホテルのラウンジに根づいているソーシャルクラブ、いわば大人の夜の楽しみ方を、この銀座でこそ紹介しなかったのです」

それがプロデューサーである中本幸一さんがPLUSTOKYOで展開したい新しさであり、ひいては東京に加えたい魅力だという。「やはり海外の大人たちは、音楽、酒、ファッション、そして出合いの使い方が上手です。対して日本のナイトシーンはいまだDJを軸にしたクラブが主体ですが、従来のクラブを卒業した人たちが行き場を失っている部分もある。そういう大人がより自由に楽しめる場所、自分流に言わせてもらえば

ナイトクラブではなくライフクラブを創造したかった。京都を中心にナイトマーケット事業に携わってきた私にとって、銀座はいまでも伝統を感じる街です。しかも近年は東側が元気でですから、ここから最新の東京がはじめられると信じています」

中本さんの確信には、東京五輪と前後するナイトタイムエコノミーやインバウンド需要の発展も含まれている。一方で都内在住の外国人は、彼らにとって慣れ親しんだ雰囲気もPLUSTOKYOに感じ取り、相当数が通い詰めているという。しかし、銀座をよく知っているはずの日本人がそれを見逃しているのか？ 海外交流に関するさまざまな流行はさておき、新世代の和魂洋才を醸し出す遊び場はできた。それをこなれた大人が放っておく手はないだろう。



1) 12階のメインロビーに巨大な富士山。真裏には赤富士が描かれている。2) メインロビーの奥にはVIPルームのローズが。各空間は間仕切りでいかようにも構成できる。3) 国産クラフトスピリッツを提供するバー、MIXOLOGY SPIRITS BANG (K) で一番人気のカクテル「ヴォルケーノ」(1620円)。4・5) バーにつながるサロン。女子会の利用も多いローズ。この二つは趣の異なるVIPルーム。6・7) 中央通り側の窓に添うように走る約30mのメインバー。カウンターの表面は本物のアスファルトを敷き詰めている



DATA
PLUSTOKYO
住所：東京都中央区銀座1-8-19 12F/RF
Tel：03-3563-3776
営業時間：PLUSTOKYO17:00～24:00
(金・土曜、祝前日～28:00)、
ROOFTOP BBQ17:00～23:00
(L.O.21:00)、Mixology Spirits Bang(k)
18:00～24:00 (金・土曜、祝前日～28:00)
定休日：不定休 <https://plustyo.com>

夜の過ごし方を変えた丸の内「遊戯場」。

「丸の内ハウス」は、新丸ビル7階にある9店舗のレストランフロア。ただの飲食店街ではなく、さまざまな情報発信をする場であり、街づくりの発想をもとに、丸の内に「サロン」のようなたまり場が必要という考えから創られた空間。その中心人物のお二人に、この「街」のコンセプトや夜の過ごし方の変化についてうかがった。

12年前、朝4時まで営業する街が生まれた経緯を教えてください。
佐藤：僕が六本木や芝浦でディスコやクラブをやった70年代から90年代って、いろんな若者文化がはじまった時代なんです。たとえば雑誌でいえば、ポパイやブルータスの創刊、ファッシュジョンだとDCブランド、音楽ではダンスミュージック、DJも個性あるクリエイターとして登場しました。僕のお店にはそれぞれの業界の最先端にいる人たちが新しいモノやコトを求めて、集まってきていました。新宿のゴールデン街では映画関係や小説家や出版関係の人たちが集まる店があって、熱く語り合っていた。ところが、丸の内はそういうところがない。お金を使ってくるエリートたちも銀座や六本木に流れていました。

フロアです。時代を牽引するようなお店をつくられていた方々が新しい夜の街づくりや丸の内の活性化に賛同してくださいました。佐藤さんは3店舗のオーナーでこの街のポス的存在。私は全体を統括する仕事です。
昼にはない世界。お二人が考える夜の魅力って何でしょう。
佐藤：夜の魅力は、人との出会いでしょうね。自分の会社の上司と飲むことも大切だけど、いろんな人が交わり合っているから、店で知り合ったはじめての人とお酒を飲んだり、リアルな情報を得ることができます。街の違いや店の形態によっても異なると思うけれど、まったく知らない業界、違う年の人と出会えることが大きな魅力です。たとえば「スナック」は、街の特性が客層などでリアルに表現されるし、ドアを開ければ新しいコミュニケーションができる。丸の内にはスナックは皆無でしたから、ここではじめると街が活性化するんじゃないかと。

玉田：丸の内はもちろん、ほかの街でも朝4時まで営業している商業施設なんてあまりない時代でしたからね。DJブームをつくって、好きな音楽を聴いてお食事したり、おしゃべりしたりして、夜を楽しんでもらうことにチャレンジしました。
大人の流儀、大人の楽しみ方を教えてくれるのが夜の街であると。
佐藤：昔は丸の内あたりや銀座にも靴磨きの人があった。ネクタイも昼と夜で替えるのは、夜に対する礼儀だったのでしょうか。夜はTPOに関しても厳しい。居酒屋で騒ぐのはある程度許されるけれど、いいバーに行けばきちんと酒と向き合うことも要求される。それぞれ流儀があり、それはネットで検索しても具体的にはわからない。足を運んで覚えるしかない。
最近では、海外から来られたお客様もかなりいらつしやいますよね。
玉田：日本にはじめて来られた方は京都の街や広島島の厳島神社、和歌山の高野山が人気だと思います

が、路地がある丸の内ハウスという空間に日本の娯楽性を感じてもらっているのかもしれない。仕事で東京に来られた方がフラッと立ち寄れる場所ですからね。三菱地所の人がロックフェラーの方を連れて、とても気に入られたって。
夜の経済活動を活性化するために、何かご要望はありますか。
佐藤：電車やバスが午前2時まであると、ゆったり楽しめる。接待費も優遇してほしいなあ。
玉田：山手線一周を遊園地にたとえると、それぞれの街がアトラクションの役割を担う意識をもつべきです。東京の盛り場をグルッと一周できる山手線は世界的にすごい電車ですよ。オーリンピック後も深夜運行を考えていただけると、うれしいです。



丸の内ハウスのテラスから、東京駅を望む絶景。東京の夜を満喫できる場所であり、デートスポットとしても人気。最近では、ドラマのシーンに利用されることもある

丸の内ハウス



丸の内ハウス 統括マネージャー

玉田 泉

元三菱地所勤務。当時は大手町ビル1階の大手町カフェを担当しその後、丸の内ハウス統括マネージャーに就任。現在は、同職を丸の内ハウス事務局にて執り行う

テーブルビート代表取締役

佐藤俊博

かつて東京の夜を席巻したツバキハウスやGOLDをプロデュース。現在は丸の内ハウスで蒸し料理レストラン「MUS MUS」のほか「来夢来人」、「現バー」を運営している

DATA

丸の内ハウス
住所：東京都千代田区丸の内1-5-1 新丸ビル7F
営業時間：11:00～翌4:00
(日曜、祝日、連休最終日は～23:00)
※店舗により異なる
www.marunouchi-house.com



新宿 末廣亭

将棋バー あるじゃん

呑みながら、ゆるり。 親しむ盤上の戦略性

将棋盤とグラスを挟んで
人と人がつながる夜を

仕事帰りのビジネスマンが街にあふれる宵の口、西日暮里駅の高架を見上げる小さな店に続々とお客がやってくる。入り口に銀将のオブジェが光るこの店は、グラスを片手に将棋を指せる「将棋バー」。有段者が常駐するので、初心者からベテランまで誰もが楽しめる。「たとえば将棋道場だと、昇級を目指す場だから負けられないんです。もちろん素面ですしね。ここは、勝ち負け関係なく、肩の力を抜いていこうよという場所。道場の帰りに寄る人もいます。一杯やりながら、その日の勝負を振り返るのも楽しいものですから」

店長・福田さんはここ数年のブームに踊らされることなく、将棋そのものの魅力を堪能できる場づくりに励んでいる。

「将棋は完成度の高いゲーム。戦略性の奥深さにロマンを感じる人も多いですね。企業の管理職の方



DATA
将棋バー あるじゃん
住所：東京都荒川区西日暮里4-1-20
西日暮里エーシービル105
Tel：03-3824-9480
営業時間：18:00～23:00
定休日：日・月曜 www.argent.tokyo

次世代の真打ちは 土曜の夜に腕を磨く

深夜寄席で堪能する
若き二ツ目たちの話芸

1897年に創業した「堀江亭」を前身として戦後に再建、東京の大衆に粹な笑いを提供してきた新宿末廣亭。毎週土曜の夜、ここに長蛇の列ができる。待ちかねるのは、真打ち昇進を控えた二ツ目たちの落語を1000円で気軽に楽しめる深夜寄席だ。

「落語家は前座から二ツ目になると楽屋での仕事がなくなつて、寄席から足が遠のきます。しかも二ツ目から真打ちになるには10年ほどかかる。困った二ツ目たちが『本興行が終わった後の寄席を使わせてほしい』と申し出たのが48年前。いまでは行列ができるけれど、も

とは彼らの勉強の場だったんです」

北村幾夫会長はそう語りながら、路上で呼び込みの声を上げる二ツ目たちを見守っている。

取材当日に出演したのは柳亭市弥さん、林家扇さん、柳亭市童さん、柳家緑助さん。彼ら20〜30代

の二ツ目たちは、会場整理からカウントまですべてを自分たちで担う。「お客さんには若い方や、日頃寄席に来ることがない方も多くいます。だからこそ『落語って面白い！』と思つて帰ってもらいたい。僕たちの腕次第です。だから、緊張感がありますね」

この日のトップバッター、柳亭市弥さんはそう意気込む。

次期真打ちを期待された若き二ツ目たちと、彼らを応援する人々がつくり上げる夜の熱気。落語という文化が受け継がれる最前線は、ここなのかもしれない。



DATA
新宿 末廣亭
住所：東京都新宿区新宿3-6-12
Tel：03-3351-2974 営業時間：昼の部
12:00～16:30 夜の部17:00～21:00
※土曜のみの深夜寄席21:30～23:00
www.suehirotei.com

横丁という名の昭和の夜文化が 点在しがたちづくりる環



横丁around 山手線

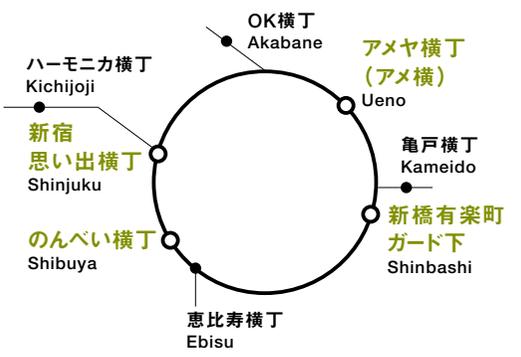
1・2) ところ狭しと店が立ち並ぶ新宿の「思い出横丁」。外国人観光客も目立つ。3・4) 新宿思い出横丁の「第二宝来家」。サラリーマンたちの憩いの場である元祖焼き鳥店。店先でもつ焼きを炭火で焼く。5・6) 名店がひしめく新橋ガード下。女性客も多い。7・8) いつも多くの人で賑わう上野のアメ横(アメ横)。昼飲みできるお店もある。9) 渋谷のんべい横丁の入り口。10・11) 「ピストロダブル渋谷本店」。外国人のお客は初来店だという。名物料理「カスレ」は豚、牛、鴨肉の煮込み料理。ワインといただく



け野原だった一帯に昭和21年頃に露店や屋台が集まって、闇市がつけられたことが始まりだ。「当時の日本は食糧難で、人々は闇市で食料を買って、食事をしました。私の祖父が豚のモツを仕入れて串に刺し、最初に売ったら飛ぶように売れたんです」と語るのは、いまも思い出横丁で2軒の焼き鳥店を営む「宝来家」店主・金子栄二郎さん。そうして、次第に焼き鳥屋が増えていったことがいまの思い出横丁のルーツとなっている。ただの焼け野原がいつしか、多くの人に愛される場になったのだ。時代は昭和から平成、そして令和と移るにつれて、横丁も若者や女性客、外国人の客が増え、少しずつ表情を変えている。渋谷の「のんべい横丁」の広報・御厨浩一郎さんによれば、このところ赤提灯ではなく、バルやバーが増えているという。歴史のある店では代替わりが進み、お店によっては継ぐ人を見つからず店じまいするところもあるが、常連客が店を引き継ぐこともあり、御厨さんも、そうして店を継いだという。客層が変わっても、横丁の楽しみ方は昔も今も変わらない。格式高い飲食店では味わえない、雑多な場所だからこそ本音で語り合える横丁は、きつとこれからも夜を楽しむ場として人々を魅了し続けるだろう。

【横丁一よこちよう。表通りから横に入った細い道、またその通りのこと。通りにはところ狭しと古いながらも居心地のいい店が立ち並び、店先には「もつ焼き」、「焼き鳥」などの文字が入った赤提灯が並ぶ。そんな横丁は、夜の憩いの場として長年親しまれてきた。そもそも横丁は、終戦直後から全国で同時多発的に発生した闇市を出自とするところが多い。上野の「アメ横横丁(アメ横)」や新宿の「思い出横丁」もそのひとつだ。新宿の思い出横丁は戦後、焼

生の声が伝える
横丁の発祥といま





古民家Bar 書齋



BOOK AND BED TOKYO

本の可能性を拡張する 非・日常に泊まる

ホテルの価値を変える
楽しくて眠りたくない

池袋C8出口から徒歩30秒。雑居ビルに開かれた「BOOK AND BED TOKYO」は、泊まれる本屋として新しい宿泊施設のかたちを追求している。「ホテルとは何か？ 突きつめるとそれは、心地よい眠りを提供する場所だと思えます。でもすべての人がそう望んでいるかといったら、違うかもしれない。自分なら、『楽しくて眠りたくない』と思える場所をつくりたい」と語るのは、ディレクターの力丸さんだ。

「細長い箱型の物件を使い、いかに目的を実現するか？ そこで考えたのが、『本』というキーワードでした。エントランスを抜けると、細い通路につながり、ほどなくして巨大なカウチがあらわられた共有スペースが見



DATA
BOOK AND BED TOKYO
住所：東京都豊島区西池袋1-17-7ルミエールビル7・8F Tel: 03-6914-2914
チェックイン：16:00 (アーリーチェックイン 13:00 ~ +500円 / 1h)
チェックアウト：11:00 (レイトチェックアウト ~ 13:00 +500円 / 1h)
宿泊料金：コンパクト3800円 (税抜)、スタンダード4600円 (税抜)
<http://bookandbedtokyo.com/tokyo>
※パジャマレンタル：500円 (税抜)

えてくる。書棚の奥には、小型ベッドが見え隠れし、まるで書棚の中で眠るよう。宿泊客も多様で、海外からの観光客や、近隣の方がサードプレイスとして利用することも。街中であって、手頃な価格で泊まりに行けば、非日常感を味わえる点も魅力だ。

「普段は本を読まない方々も意識して選書しています。つい手に取りたくなるような本を置き、デザインや読書の雰囲気を楽しめる」と力丸さん。ここから本は新たな読者を獲得し、読書の在り方が変わるのかもしれない。

パブリックな書齋で 本、酒、会話に耽溺したい

多彩な本と合わせたのは
ここだけのボタニカル酒

居酒屋やビストロが軒を連ねるJR田町駅西口の一帯。賑やかな飲食店街を抜けたその先に、ひっそり佇む日本家屋がある。建物の端に取り付けられたドアを開くと、2階へ続く階段が現れた。階段を上り、靴を脱ぐ。思わず「ただいま」と口をついてしまいたいような温かな雰囲気が妙に心地いい。

ここ「古民家Bar 書齋」のテーマは「東京にある、故郷の家」。入店時に感じた懐かしさにも納得である。座敷スペースもある店内には、さまざまなジャンルの本が並び、自由に閲覧可能。酒を飲みながら本の世界に没入できるというのは、至極の時間と呼べるのではなからうか。もちろん好みの一冊を持参してもいいし、友人やパートナーとの会話を楽しむもよし。「話題作」、「小説」、「ビジネス」、「心理学」など、カテゴリーがざらに揃ったブックメニューも用意されて

おり、普段あまり本を読まない方にとっては運命の一冊に出合えるきっかけにもなるはずだ。

酒のラインアップは、日本各地の地ビールやオリジナルカクテルなども含めて多種多様。中でもシヨウガや大葉、ローズマリーといった自家製の漬け込みカクテルはぜひオーダーしてほしい。チャージは500円でセルフサービスの小菓子が食べ放題。小腹がすいたら限定20食の「書齋カレー」(900円)も用意されている。まさにこの場所は「夜にだけ存在する特別な書齋」といえるだろう。



DATA
古民家Bar 書齋
住所：東京都港区芝5-2-10 2F
Tel: 03-6809-3739
営業時間：18:00 ~ 24:00 (L.O.23:30)
定休日：土・日曜、祝日
<https://foodplace.jp/kominkabar-shosai>



山手線沿線の暮らしを旅する

多様な個性をもった「ひと」や「まち」をつなぐ
都心環状線・山手線。そんな山手線沿線の魅力を
五感で感じる、東京感動線と体験予約サイト
「TABICA」がコラボしたツアーにフォーカス。

特設サイトは
コチラから！



東京感動線

山手線を起点に、まちの個性を引き出し、まちや人が有機的につながる心豊かな都市生活空間「東京感動線」を継続的に創り上げていくプロジェクト

TABICA

さまざまな「体験」を提供する「ホスト」と、参加する側である「ゲスト」をつなげるネット予約サービス。その体験メニューは自然、文化、食など多岐にわたる

これまでの東京感動線×TABICAコラボ体験

- 上野駅** | 美術館に勤務していたガイドと歩く「面白い日本美術ツアー」
- 原宿駅** | 森の案内人と巡る。明治神宮と原宿から続く神聖な森をご案内！
- 日暮里駅** | 縁側愛好家と巡る古民家が多く残る谷中古民家ツアー

東京感動線 ホスト募集中！



TABICAでは、誰でも体験を企画し、体験紹介ページの掲載・集客をすることができます。体験紹介ページの作成は無料で簡単にできますし、保険も付いているので個人の方でも安心して体験を開催することができます。東京感動線ではTABICAのサービスを紹介して山手線沿線の暮らしを提供してもらえる東京感動線ホストを募集しております。左のQRコードからお申し込みできます

山手線沿線の魅力を感じたい
身体で、心で感じたい

山手線沿線の暮らしを旅する東京感動線×TABICAの個性的な体験型ツアーの数々は、ときに知的好奇心を満たし、ときに心と身体を癒してくれる。

その好例が大都会・東京に宿る自然への気づきを与えてくれる、都会の森散策ツアー。ガイドは、森の案内人、三浦豊さんだ。アスファルトの間から芽吹く緑を目にしたとき、「その昔、東京はすべてが森だった」ということに気づかされ、そこに帰帰しようとする草木の力強さに感銘を受けたという三浦さん。彼の言葉通り、山

手線沿線には数多くの訪れるべき森が点在している。

かつて山手線沿線に広がっていた原始の森の名残をとどめる明治神宮、悠久の歴史が宿る上野の森、徳川幕府の将軍別邸とされた浜離宮恩賜庭園、森と触れ合えば、東京の歩んできた道が見えてくる。ときには、道端の草花の解説も。アスファルトの間から芽吹いているのも、森」と言う三浦さんとの散策は実に楽しい。森と軸にした目線でもちを眺めると、見慣れた風景も違ったものに見えてくる。ほかに古民家探訪、食と歴史をたどるまち歩きなど、五感で感じられるツアーが多数揃うので参加してみたいかが。



DATA

東京国立博物館

住所：東京都台東区上野公園13-9 Tel：03-5777-8600（ハローダイヤル）
開館時間：9:30～17:00、金曜・土曜～21:00（入館は閉館30分前まで）
休館日：月曜（祝・休日の場合は開館、翌平日休）
入館料：一般 620円（特別展は別途） www.tnm.jp

洋館に招かれたようなひとときの鑑賞

三菱一号館美術館

毎週金曜、第二水曜、展覧会会期中の最終週平日は21時まで

東京駅から徒歩で5分。夕景のビル群の中に、柔らかな明かりを灯すレンガづくりの館が見えてくる。ここは「三菱一号館美術館」。イギリス建築家のジョサイア・コンドルが設計した洋風事務所建築を、近年、三菱地所が美術館としてよみがえらせた。「内部の装飾や、展示室のマントルピースから、西洋の邸宅に招かれたよう感じのお客さまも」と広報の福土さん。おすすめは、展覧会会期中の最終週。月曜休館の美術館が多い中、鑑賞できるのは、もはや特別。さらに夜ならば混みにくく、ゆったりと過ごせる。その後は、当時の銀行営業室の空間を再現した「Café1894」へ。仕事帰りにアートと食を楽しむ。

DATA

三菱一号館美術館

住所：東京都千代田区丸の内2-6-2 Tel：03-5777-8600
開館時間：10:00～18:00、祝日・振替休日を除く金曜、第二水曜、展覧会会期中の最終週平日～21:00（入館は閉館の30分前まで）
休館日：月曜（祝日・振替休日・企画展会期中の最終週は開館）、年末、元日、展示替え期間 https://mimt.jp



鑑賞するも、学びを深めるもよし

ワタリウム美術館

毎週水曜21時まで開館

外苑西通りに面した、現代建築で知られる「ワタリウム美術館」。ここでは、毎週水曜の夜間開館はもとより、鑑賞するだけではない夜の楽しみ方がある。

「企画展会期中は、木・金曜の閉館後に講演会を行うことが多いですね。また、数回の講義から成り立つさまざまなレクチャーも人気です」と、広報の森さんは話す。そのときの企画展にまつわるテーマ、また独自のテーマで講義などが毎週のように開催されているのだという。

アートに対する興味にとどまらず、クリエイターの思想から生き方そのものを学べる講義なども多いため、仕事帰りのビジネスパーソンの参加も見られるとか。ワークショップや講義の内容は、ウェブサイトや館内に設置された告知案内などで見られるので、チェックしてみたい。

DATA

ワタリウム美術館

住所：東京都渋谷区神宮前3-7-6
Tel：03-3402-3001
開館時間：11:00～19:00、水曜～21:00
休館日：月曜（祝日を除く）
www.watarium.co.jp

今後の企画展

印象派からその先へー世界に誇る 吉野石膏コレクション展
会期：10月30日（水）～2020年1月20日（月）

吉野石膏株式会社が所蔵する近代美術コレクション72点を展示。モネ、シャガール、ピカソなど有名画家の粒よりの名品を一挙公開

ゆ・つ・くりと鑑賞できるだけではない
ナイトミュージアムの醍醐味とは





TOKYO MOVING
ROUND



TOKYO MOVING
ROUND

東京感動線